

3478 地球のかおり 「尖峰のご来光」：状況と心模様①

日本なら富士山、中国は黄山。
欧州なら、マッターホルン、4.478メートル。
その雄姿は憧れの的だった。

夏に何度かチャレンジしていた。くっきりとはいかない。
やはり厳寒の冬場、念願が叶った。
夢に描いていた、マッターホルンのご来光の瞬き。
冬場ゆえの光の鮮明さ。
豪雪で思うようなポジションが得られない。
私の立つ位置は、標高 3.300 メートル。

夜明け前は真っ暗。いや、天空は青かったかも。
ぼんやりと眼前に見えていたように思う。
間も無く憧れの光景とのご対面！ ワクワクしたものだ。
明るくなるにつれて、雪の白さが目に飛び込む。
足元はアイスバーンもあれば、柔らかな雪もある。
靴にはアイゼン。頭上にライト。身は重装備の防寒具。
寒さも忘れて時を待った。心は熱く燃えている。
人影もない。誰もいない状況。
たったひとりの夢冒険。

吐く息も白い。物音一つしない静寂。
底深い静寂があるとは思ってもよらなかった。
静けさや、岩に染み入る、蟬の声？ の俳句が脳裏に。
我が身の息づかいを耳に、固唾をのんで待った。
直感で、ベストポジションを確保し、足元の雪を固めた。
身体と心と呼吸を整える。
間も無く、左方向が少し明るくなり始めた。

つづいて、左端の低い山の頂^{いただ}きが、赤く輝き出した。
天空ショーの始まりである。
ピアノの鍵盤をたたくように、順番に、左方向から右へ
陽光が鋭角の峰々を赤く染める。
まるで、白い雪の中を、赤い光が走るよう。
スピードが増してきた。白い雪とのコントラスト。
まだ、直接には陽光は見られない。

突然、マッターホルンの頂上^{いただ}が点灯。
左下の山かげから、頂上を目指し一筋の閃光。
スローモーションのようなスピードで、
陽光は、マッターホルンの頂上から下へと染め上げる。
息をのむどころではない。
息をするのも忘れて、固唾^{かたず}をのむ。感動の極み。
スマイルオンミー。

ご来光、マッターホルンとのご対面！
夢に描いていた光景が眼前に展開。正夢である。
寒さのせいではない。ゾクゾクした。
外国語には、こんな表現はない。
苦労して、ベストポジションに、たどり着いたおかげ。
立つ位置にも恵まれた。なんともラッキー。
厳しい急坂を、峠まで上りきってこそ、
素晴らしい素敵な景観が見られるというもの。
上っても見られないことが多い。

やがて、陽光の暖かさとは別に、
重装備の身体が、極度に冷たく感じてきた。
夜明け前が、一番冷え込む。指先だけ出す手袋をしている。
もうすでに、指の感覚が遠くなりつつある。
どれだけ、時間が経ったのだろう。

こうした瞬間があるから、常に危険と背中合わせ。
前夜、山小屋に宿泊していたので、戻る距離も遠くない。
近い遠いもあるが、道なき道に入り込んでいる。
帰り道の状態が問題。ベストポジションを確保するために
少し脇道に逸れている。夢中で移動したのか、
気がつくと、重装備で腰まで雪の中へ沈んでしまっている。
人間夢中になると、見えなくなるものらしい。
この作品が残ったことに感謝。なんとも有難い。
地球紀行、今まで幻の素晴らしい光景を、いっぱい、目にしてきた。
作品として残るのは、ラッキーがないと出来ない。
また一つ、鍛えられ、心の財産が増えた。

なぜ、山に登るのか、私は登山家ではない。
危険を冒してまで、なぜ、山に登るのか、なぜ？ なぜ？
そんなに価値のあることなのか。そんな問題ではない。
「山があるから」 わかるような気がする。

そのとき、はるか遠方に一筋の飛行雲。
ここはスイス、早朝の訓練だろう。場所によっては
この飛行機が、作品の邪魔をする。その後、次々と何機も目撃。
午前7時までの光。ともかく、やわらかい。
山になぜ登る。山があるから。
それだけではない。言葉では表現がむづかしい。
本人にしかわからない、実に感激の瞬間があるはず。
汗を流して、苦労したからかも知れない。
その苦労に比例して、感激度が増すように私には思える。
たかが、一枚のご来光マッターホルン。
中途半端でない、真剣勝負。命までかける作品がある。
それが生きている証し、と考える人間もいる。
人間、生き方は様々。松尾芭蕉。
人生後半、面白いではないか。地球の細道を行くと夢想するのも。

今は企業戦士であった時とは環境も状況も違う。夢と現実。
ひとり旅はDIY生活。「サシスセソ」や不便さを楽しむ方法も少しは学ぶ努力もしている。
裁縫、しつけ、炊事、洗濯、掃除、「しつけ」は我が身の弱い心に対して。
好き嫌いにかかわらず、夢のため、馴染む努力はしてきた。
良寛さんの清受食文「五観の文」に受食の大切さを説いておられる。
食物が作られるまでの苦労の並々ならぬことを思い、と5項目つづいている。

くらくく いど
久楽の夢挑み。元気で地球紀行を続けられたのは、
国内外の食のおかげと健康体があったからこそ。感謝感謝である。
そして、まず訪問国の市場を訪ねるのは、そこから見えてくるものがあるから。
環境が人を育む。環境要因の大きさを痛感。
私は、ひとりよがりだけだろうが、環境を変える選択も一方法。
厳しい自然、美しい自然との対面は、身体と心の足し。
美しい自然も厳しい自然も、私には有難い。
この自然の微笑みは、その時だけでなく、^{のちのち}後々も心の財産となる。
この素晴らしい自然や地球にあらためて感謝。
心もなごませてくれる。癒し、時に、強力なエネルギーもくれる。
勇気づけられ、生命力やパワーも注入してくれる。

国内外を含めて、地球ひとり旅の体験は、人生後半、私の生き甲斐であるのは事実。
美しい自然と出会いたい。そして、夢と元気と文化の発信。
私のライフワーク、継続して行けたらなんと幸せ。
思い通りに行かない四苦八苦の領域が待ち構えている。しかし、まだまだとの思いはある。
夢は探すのではなく、夢は創るもの。
今、夢挑戦を続けるため健康最優先。日々、夢のために頑張れる。
取材した画像も、勇気をくれる。座右の銘に「^{かたつむり}蝸牛、登らば登れ、富士の山」
コツコツ実践を続けることの大切さ。自分への^{こぶ}鼓舞。

マッターホルン、ありがとう。
また、気力&パワーが注入されました。